



屋内退避 チェックリスト

- 1. あわてず落ち着いて、まずは建物の中に入る。
- 2. 外気を入れられないため、ドアや窓を閉める。
- 3. 換気扇のほか、外気を取り込む設備などを止める。
- 4. テレビやラジオ、携帯電話メールなどから、新しい情報を入手する。
- 5. 市からの情報を待ちながら、冷静に行動する。
- 6. 避難に備え、非常持ち出し袋を準備する。
- 7. 食品は、フタやラップをして冷蔵庫や戸棚に保管する。
- 8. やむを得ず外出する場合は、長そで・長ズボン・帽子・マスク・手袋などを身に着ける。
- 9. 外から帰ったときは、顔や手を洗い、うがいをする。



避難 チェックリスト

- 1. 避難指示が出てから、行動する。
- 2. 火の始末を忘れずに行う。
- 3. 持ち物は最小限にする。
- 4. 近所で声をかけあう。
- 5. 長そで・長ズボン・帽子・マスク・手袋などを身に着ける。
- 6. 戸締まりを忘れずに行う。
- 7. 原則、自家用車で避難する。
- 8. できる限り、乗り合いを心がけて渋滞緩和に協力する。
- 9. 自家用車で避難できない人は、バスや福祉車両などで避難する。



家族の連絡先

名前	連絡先
	☎
	☎
	☎
	☎
	☎
	☎



みんなの安全と安心を守るために

原子力防災ガイドブック



はじめに

長岡市では、市民の安全と安心を守るため、国、新潟県、県内市町村などと連携しながら、原子力安全対策の取り組みを進めております。

この「原子力防災ガイドブック」は、福島第一原子力発電所事故の教訓、これまで長岡市が培ってきた防災力、防災訓練の成果などを踏まえて作成しました。

「まずは屋内退避」「風向きなどを考慮し、特定区域のみ避難」など、原子力災害における行動や安全対策の取り組みについてご理解いただき、万が一の場合は、冷静な対応をお願いします。

目次

1 原子力防災とは

はじめに	1
長岡市が大切にしている理念	2
原子力防災の全体像	3

2 万が一の時の行動

確実に情報を入手しましょう	5
まずは、あわてずに建物に入りましょう	7
屋内退避でとる行動	9
特定区域のみ避難を行います	11
市はさまざまな情報を集めます	13
子どもたちへの対応は	15
高齢者、障害のある人などへの対応は	16
災害対応には、地域の力が重要です	17

3 原子力安全対策の取り組み

長岡市防災計画の策定と体制の強化	19
県内全市町村との連携	22

【参考】 原子力防災用語集	25
原子力防災Q&A	26
各種情報のご案内	26
屋内退避・避難チェックリスト	27

長岡市が大切にしている理念

国、新潟県、原子力事業者に対して

徹底した安全対策を求め続けます

しかし、万が一に備え

万全の防災対策を講じます



安全協定に基づき柏崎刈羽原子力発電所内を視察

安全対策

- ・国や新潟県へ**原発の安全確保や実効性のある対策**を要望
- ・東京電力株式会社との**安全協定**の締結
- ・安全協定に基づく**原子力発電所連絡会**の開催や**現地確認**の実施など



原子力防災訓練の様子

防災対策

- ・**地域防災計画(原子力災害対策編)**の策定
- ・**原子力防災訓練**の実施
- ・県内市町村による**広域連携**の取り組みや**実効性のある避難計画(暫定版)**の策定
- ・平常時からの**関係機関や住民との連携・協力**体制の強化

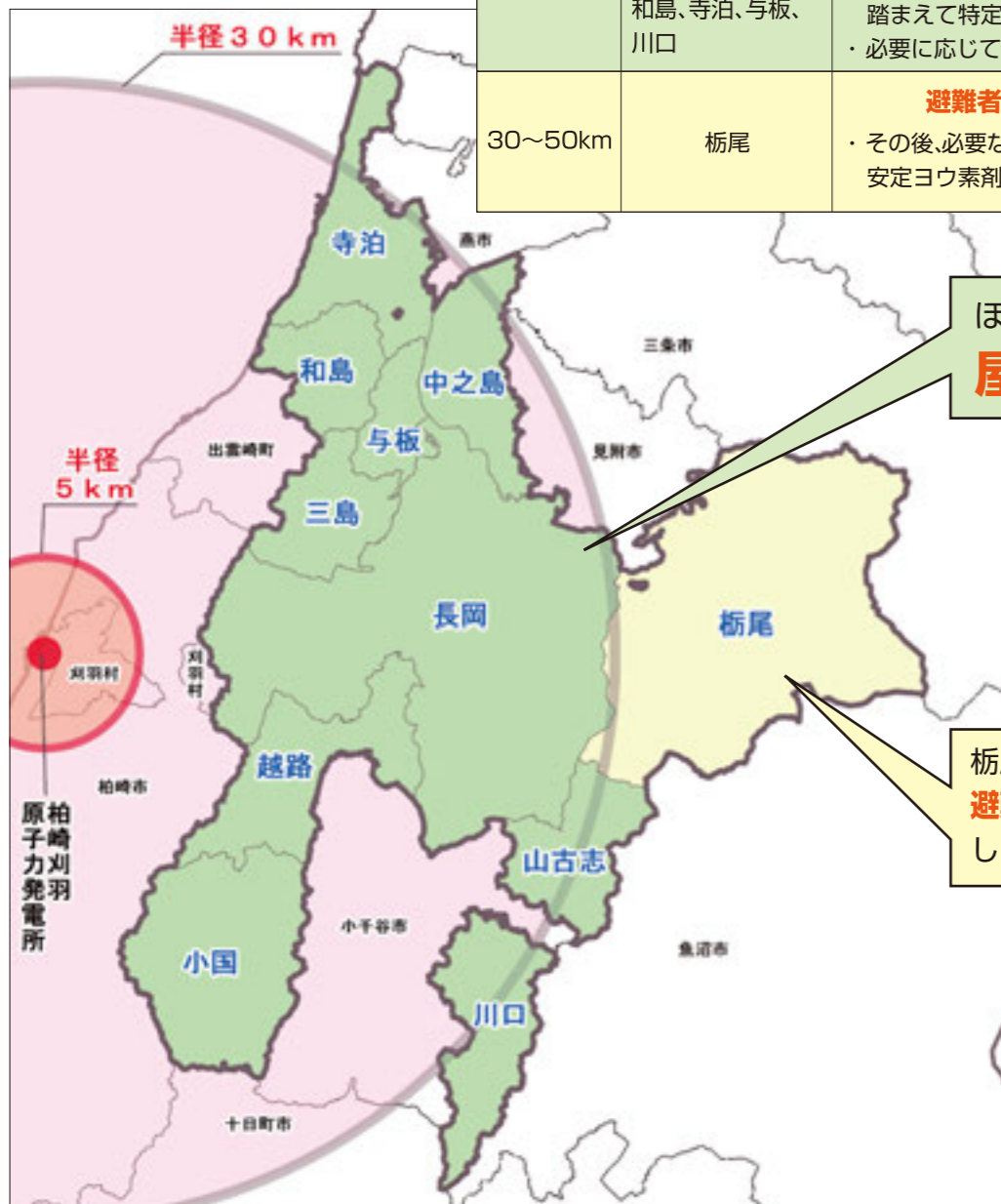
原子力防災の全体像

! 距離に応じて適切に行動

重要
ポイント

基本の行動は
屋内退避です。

原発からの概ねの距離	該当地域	基本の行動
~5km	柏崎市の一部と刈羽村	即時避難
5~30km	長岡、中之島、越路、三島、山古志、小国、和島、寺泊、与板、川口	まずは屋内退避 ・その後、風向きや放射線の測定結果などを踏まえて特定区域のみ避難 ・必要に応じて安定ヨウ素剤を服用
30~50km	栃尾	避難者の受け入れを検討 ・その後、必要な場合は、屋内退避や避難、安定ヨウ素剤を服用



ほとんどの地域は
屋内退避です。

栃尾地域は
避難者の受け入れを検討
します。

! 事態に応じて 情報入手 → 屋内退避 → 特定区域のみ避難

緊急事態発生

情報入手

屋内退避を実施
(5km圏は即時避難)

放射性物質の放出

屋内退避を継続
(国・新潟県等が放射線測定体制を強化)

避難が必要な
特定区域のみ避難

原子力発電所で緊急事態が発生 ⇒ 住民への情報提供を開始!

- ・報道機関からの情報(テレビ、ラジオなど)
- ・緊急告知FMラジオ
- ・エリアメール、緊急速報メール
- ・ケーブルテレビ
- ・長岡市ホームページ
- ・広報車(長岡市、消防団など)
- ・防災行政無線
- ・NPO法人によるメール配信
- ・町内会への電話 など

5ページへ

事態が進展 ⇒ 放射性物質の放出前に屋内退避を指示!

- ・5km~30km圏では、「屋内退避を実施」
- ・30km圏外(栃尾地域)では、「避難者の受け入れを検討」
- ※このとき、5km圏では、避難を実施

7ページへ

放射性物質が放出 ⇒ 放射線測定体制を強化。屋内退避を継続など指示!

- ・5km~30km圏では、「屋内退避を継続」
- ・30km圏外(栃尾地域)では、必要に応じて「屋内退避の準備」に入る

7ページへ

市内の一部区域で放射線が基準値を超える ⇒ 避難が必要な特定区域に避難を指示!

- ・5km~30km圏で、放射線の測定値が国の避難指示基準値を超えた特定区域については、「避難を実施」(それ以外は「屋内退避を継続」)
- ・30km圏外(栃尾地域)では、「避難者の受け入れを実施」
また、必要な場合は「屋内退避や避難を実施」

11ページへ

確実に情報入手しましょう

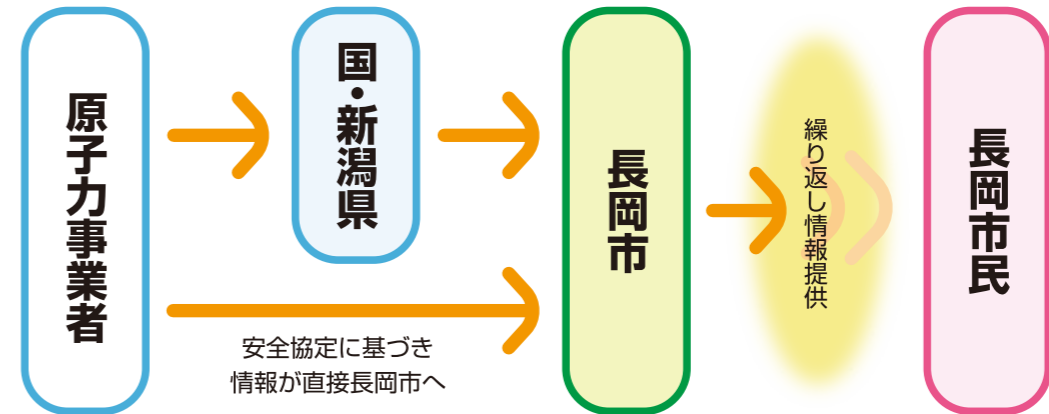
！ 災害情報の伝達

- 長岡市や国、新潟県は、早い段階から、あらゆる手段を用いて災害情報をお伝えします。
- まずは冷静に情報を受けとめ、不確実な情報にまどわされないようにしましょう。

いざという時のために

情報入手の手段を確認しておきましょう

情報伝達のイメージ



緊急事態発生

情報入手

屋内退避を実施
(5km圏は即時避難)

放射性物質の放出

屋内退避を継続
(国新潟県等が放射線測定体制を強化)

避難が必要な
特定区域のみ避難

ラジオ (緊急告知FMラジオ)



- ・FMながおか(80.7MHz)では、長岡市の災害情報を優先的に放送する「緊急割込放送」を行います。
- ・緊急時に自動的にスイッチが入りFMながおかを放送する「緊急告知FMラジオ」も有効です。(購入を検討される方は長岡市危機管理防災本部(TEL.0258-39-2262)にお問い合わせください。)

携帯電話など



- ・**エリアメール、緊急速報メール**
長岡市から、携帯電話などの利用者に対して緊急性の高い災害情報をメール配信します。
- ・**住民あんぜん長岡**
NPO法人住民安全ネットワークジャパンから、会員登録した携帯電話などの利用者に対して災害情報などさまざまな情報をメール配信します。
<http://jmjp.jp/m/111/>

ケーブルテレビ



- ・株式会社エヌ・シティ(TEL. 0120-080-009)では、災害発生時に文字情報で長岡市の情報をお知らせするほか、長岡市の災害対策本部会議の様態を生中継します。

長岡市ホームページ



- ・ながおか防災ホームページ
<http://www.bousai.city.nagaoka.niigata.jp/>
- ・長岡市放射線観測システム
<http://www.kishou.city.nagaoka.niigata.jp/Radiation/>

その他



- ・報道機関からの情報(テレビ、ラジオなど)
- ・広報車(長岡市、消防団など)
- ・防災行政無線
- ・町内会への電話 など

まずは、あわてずに建物に入りましょう

? 屋内退避の指示が出たら…

あわてず冷静に行動してください。

- 原発から5km圏の柏崎市の一部と刈羽村では、放射性物質が放出される前の段階から、予防的な避難を開始することになります。
- 一方で**原発から5km～30km圏では、国、新潟県、長岡市などがしっかりと放射線測定を続けるなかで、まずは屋内退避に取り組みます。**
- ご自宅への帰り道などは、**あせらず、落ち着いて行動してください。**また、テレビやラジオ、携帯電話メールなどから、新しい情報を入手してください。
- 原子力災害特有の緊張感や不安感などがあると思いますが、ご家族やご近所で、助け合い、励まし合うようお願いいたします。
- なお、事故が収束した場合には、「屋内退避の解除」を指示します。また、万が一事故が進展し、一時的な避難が必要となった場合には、国や新潟県などと協議の上、避難が必要と特定した区域に対して「避難」を指示します。



? 屋内退避とは…

被ばくの低減を図る防護措置です。

- **屋内退避は、市民の皆さんが比較的容易にとることができる対策**であり、放射性物質の吸入抑制や有害な放射線を遮へいすることにより被ばくの低減を図る防護措置です。
- 避難の指示などが行われるまで、被ばくのリスクを低減しながら待機する場合などに、長岡市または国、新潟県の指示で行います。
- なお、あわてて自家用車などで避難した場合は、交通渋滞などにより、かえってリスクが高まることも懸念されています。

原子力まめ知識

安定ヨウ素剤について

原子力災害時に放射性ヨウ素が身体に取り込まれると、甲状腺に集積し、数年から十数年後に甲状腺がんなどを発生させる可能性があります。

この甲状腺被ばくは、安定ヨウ素剤を事前に服用することで、低減することが可能です。ただし、服用の効果は、服用のタイミングに大きく左右されること、また、副作用の可能性もあることから、国からの指示に基づき、医療関係者の立ち会いのもとで服用することとされています。

すでに、新潟県が購入しており、今後、長岡市は、新潟県と適切な配備について協議を進めていきます。また、医薬品供給の点から、長岡市薬剤師会との連携も検討していきます。



緊急事態発生

情報入手

屋内退避を実施
(5km圏は即時避難)

放射性物質の放出

屋内退避を継続
(国新潟県等が放射線測定体制を強化)

避難が必要な
特定区域のみ避難

屋内退避でとる行動

ドアや窓を閉めてください。

電話などを使い、必要な伝達や確認を行ってください。(町内会など)

換気扇のほか、外気を取り込む設備などを止めてください。

食品にはフタをしたりラップをしてください。

外から帰ってきた人は顔や手を洗い、うがいをしてください。

テレビやラジオ、携帯電話メールなどから新しい情報を入手してください。

- このほか、「非常持ち出し袋」の確認など、万が一の避難に備えた準備を行ってください。
- やむを得ず外出する場合は、長そで・長ズボン・帽子・マスク・手袋などの着用を心がけてください。

緊急事態発生

情報入手

屋内退避を実施
(5km圏は即時避難)

放射性物質の放出

屋内退避を継続
(国・新潟県等が放射線測定体制を強化)

避難が必要な
特定区域のみ避難

屋内退避を一定期間実施。その後、必要に応じて **特定区域のみ避難**を行います

！ 避難の考え方

- **原発から5km圏(柏崎市の一部と刈羽村)**
放射性物質が放出される前の段階で、**即時避難**を行います。
- **原発から5km～30km圏(長岡市など)**
一定期間の屋内退避を行います。その後、放射線の測定値が国の避難指示基準値を超えた**特定区域のみ避難**を行います。

※ 原発から30km圏外の栃尾地域では、避難者の受け入れを行います。また、放射線の測定結果などによっては、屋内退避や避難なども行います。

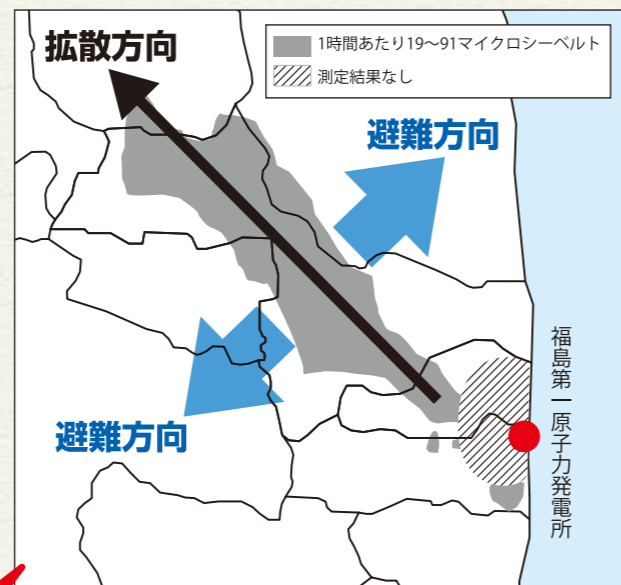
原子力まめ知識

風向きなど気象を考慮し、すばやく避難

福島第一原子力発電所事故では、特定の方向に偏って放射性物質が拡散しましたが、情報がなく拡散方向へ避難した方もいました。

長岡市では、この教訓を踏まえ、新潟地方気象台から講師を招いて、風向きを初めとする気象に関する研修会を開催するなど、関係機関との連携に取り組んでいます。

風向きを考慮し、風と直角方向など放射性物質を避ける方向への避難を原則とし、万が一避難する場合の移動距離と時間の短縮を図ります。



『文部科学省及び米国エネルギー省航空機による航空機モニタリングの測定結果について 平成23年5月6日発表資料 「文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果(福島第一原子力発電所から80km圏内の線量測定マップ)」』を基に長岡市が作成。資料に示された地表面から1mの高さの空間線量率[4月29日現在の値に換算]のうち、19μSv/hr-91μSv/hrと、測定結果が得られていない原子力発電所周辺の範囲を抽出し記載。

直角方向は、すばやく避難が可能

！ 避難方法

- 原則として、**自家用車で避難**してください。
- 交通渋滞を避けるため、**できる限り乗り合い**を心がけてください。
- 自家用車で避難ができない方は、市が用意した**バスで避難**していただけます。
- 自家用車やバスに乗れない方は、**福祉車両などで避難**していただけます。

！ 避難先

- 国、新潟県、長岡市などが協議し、避難先となる市町村と施設を決定します。
- また、避難先までの避難ルートを決めます。(幹線道路、高速道路を主体)
- 長岡市は、決まった避難先と避難ルートを速やかに市民の皆さんにお伝えします。

避難先の候補地などを検討しています

現在、新潟県が主体となり、国や市町村、関係する民間企業などと、避難先の候補地や避難ルートなどを検討しています。

平成26年2月3日、新潟県は「原子力災害に備えた新潟県広域避難の行動指針(Ver.1)(案)」の中で、避難先候補市町村を示しました。しかし、まだ課題も多く、市としては、今後も県に協力しながら検討を続けていきます。

長岡市の避難先(受入)候補市町村	
方面	市町村名
新潟・村上方面	新潟市、三条市、新発田市、五泉市、阿賀野市、加茂市、田上町、阿賀町
魚沼・湯沢方面	魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
長岡市栃尾地域	

緊急事態発生

情報入手

屋内退避を実施(5km圏は即時避難)

放射性物質の放出

屋内退避を継続(新潟県等が放射線測定体制を強化)

避難が必要な特定区域のみ避難

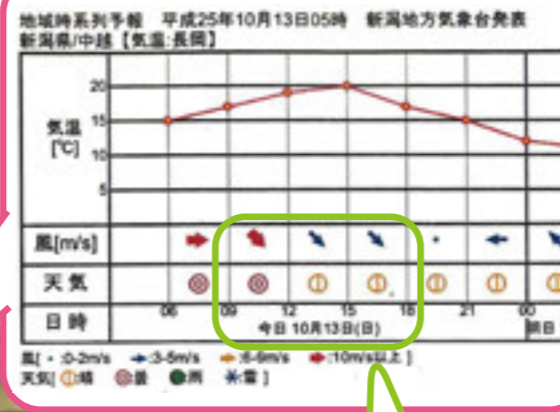
市はさまざまな情報を集めます

気象情報

放射性物質の拡散に大きな影響を与える風向きや降雨・降雪などの気象情報を把握します。

～平成25年10月13日 長岡市原子力防災訓練～ 『風向きを確認し避難先を決定』

- ・避難訓練は、大積地区約100人を対象に実施。
- ・訓練当日の新潟地方気象台の予報では、中越地方の“風向きは北西”。この予報を基に、新潟地方気象台に確認した風向きの実況や大積地区での雲の動きから、風向きに対して直角方向に避難できる中之島地域を避難先に決定。
- ・避難ルートは、国道8号と北陸自動車道。車中でも雲が北西から南東に流れる様子を確認しながら、避難先へ到着しました。



放射線情報

原発で緊急事態が発生した直後から、国、新潟県、長岡市などが放射線をきめ細かく測定し、拡散状況を把握します。

なお、長岡市では、日ごろから放射線測定を行い、長岡市のホームページで公開しています。また、国、新潟県、原子力事業者が行っているモニタリングポストでの観測データもご覧いただけます。



放射線測定の様子



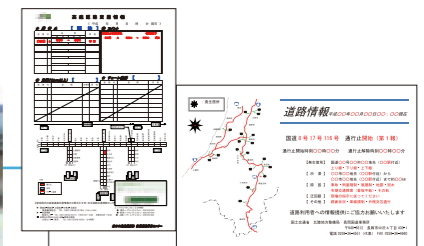
平常時から測定結果を公開
(長岡市放射線観測システム)

道路情報

自動車避難で重要な渋滞や通行止めなどの道路情報について、国、新潟県、高速道路事業者などと連携し、迅速かつ的確に把握します。



長岡国道事務所から市へ提供されている道路映像



長岡国道事務所、長岡地域振興局、東日本高速道路株式会社から市へ送付されている道路情報FAX

原子力まめ知識

冷静な行動を！



福島第一原子力発電所事故では、周辺住民が一斉に避難を開始したことで、交通網が混乱し、いたるところで大渋滞が発生しました。

長岡市では、市民の皆さんからスムーズに避難していただけるよう、気象情報、放射線情報、道路情報など、必要な情報をお伝えしていきます。

無用な被ばくを避けるためにも、長岡市から提供する情報に従い、冷静な避難行動をとるように心がけてください。

また、数十kmの移動をしなければならない可能性がありますので、日ごろから自家用車のガソリン残量には注意しましょう。

子どもたちへの対応は…

子どもの安全を確保し、 速やかに保護者に引き渡します。

保育園・幼稚園・学校など※は次のとおり対応します。

※保育園・幼稚園、市立小・中・総合支援学校、児童館(児童クラブ)

- 原子力災害が起きたら、**原則、休園・休校**とします。
- 保育園・幼稚園・学校などの活動中に原子力災害が起きたら、園児・児童は**保護者に迎えを依頼**し確実に引き渡します。中学生は速やかに帰宅させます。
- 保護者に迎えを依頼する時間がないほどの緊急事態となった場合は、**保育園・幼稚園・学校などの単位で屋内退避、避難**など必要な対応を行います。



高齢者、障害のある人などへの対応は…

国・新潟県などの協力のもと、 しっかりと支援します。

● 高齢者、障害のある人

屋内退避時の生活支援や避難において介助などの支援が必要なことから、周辺住民などへの平常時から協力体制の啓発とともに、医療機関、介護保険事業者などの協力のもと、屋内退避や避難支援、誘導體制の整備に一層努めます。



● 妊産婦、乳幼児

放射線に関する留意事項や、災害時の情報収集、問い合わせ先などの周知を図ります。なお、災害時には、早めの備えを心がけましょう。

● 外国人

多言語による情報提供体制を整備します。

● 一時滞在者(観光客など)

集客施設などと協力し、的確な情報提供を行うとともに、早期の帰宅を求めます。なお、帰宅が困難な場合には、屋内退避施設への一時的な退避を促します。

※やむを得ず「避難」が必要になった際には…

避難中に健康状態を悪化させないことなどにも十分に配慮し、避難所での健康状態の把握や、福祉施設職員などの応援態勢の整備、旅館・ホテルなどの民間宿泊施設への優先的入居などに努めていきます。

災害対応には、地域の力が重要です

隣近所への声かけや高齢者、障害のある人への手助けなど、地域内で、できる範囲の助け合いをお願いします。

- 長岡市は、自力で避難することが困難な人を把握しています。原子力災害時には、これらの情報を基に、速やかに国や新潟県、福祉団体などに避難車両などの支援を要請します。
- しかし、長岡市や国、新潟県などが行う活動にも限界があります。いざというときに、真っ先に駆けつけて助け合うことができるのは、ご近所の皆さんです。
- 原子力災害に限らず大規模な災害は、地域の助け合いが重要です。日ごろから、隣近所との交流や、町内会・自主防災会などの活動に積極的に取り組みましょう。

個別の事情に配慮した避難所運営

- 避難所では中越大震災の経験を踏まえ、日常生活の支援が必要な方に限らず、生活する方々のプライバシーへの配慮など、個別の事情に応じた避難所運営を行います。

- ・ 避難所の運営における女性の参画を推進するとともに、男女のニーズの違いなど男女双方の視点などに配慮します。
- ・ 女性や子育て家庭のニーズに配慮した避難所の運営(レイアウトを含む)に努めます。



中越大震災の経験を踏まえ、市内企業が段ボール製の更衣室・授乳室を開発。(東日本大震災の避難者受け入れの際に活用)

～平成25年10月13日 長岡市原子力防災訓練～ 『地域の力で配慮が必要な方を避難』

- 自家用車への乗り合いや、長岡市が用意したバスで避難
- 車いす利用者は、**地元消防団**と**社会福祉協議会**の支援を受けて**福祉車両**で避難



地元消防団、社会福祉協議会により車いす利用者を支援



社会福祉協議会の福祉車両による避難



バスによる避難



自家用車による乗り合い避難

長岡市防災計画の策定と体制の強化

7・13水害や中越大震災などの災害経験を活かした「災害対策本部体制の強化」

アオーレ長岡の市役所本庁舎内に、**最新鋭の機器などを備えた災害対策本部会議室を常設**し、緊急時の災害対応に備えています。

災害時には、速やかに災害情報などを把握・整理し、迅速かつ的確な災害対応を行うための意思決定や指示を行うことが重要です。長岡市がこれまでに受けた災害の経験を活かした取り組みの一つです。



大型ディスプレイを導入し、最新の気象情報やリアルタイムの道路映像などを総合的かつ同時に閲覧することが可能



様々な情報を共有し意思決定を行う災害対策本部会議



FM放送の緊急割込放送による迅速な情報提供

「地域防災計画(原子力災害対策編)」を策定

長岡市地域防災計画(原子力災害対策編)を初めて作成し、平成25年2月21日の長岡市防災会議で決定しました。

この計画は、「市町村による原子力安全対策に関する研究会」が策定した「実効性のある避難計画(暫定版)」の内容を最大限に活かしつつ、市政出前講座や市議会などを通じて寄せられた「市民からの意見や要望」、当市がこれまで水害や震災などを経験して培ってきた「防災力」、防災会議委員などからの「専門家の提案」を踏まえ、現時点で整理できる最大限の内容をもって整理しました。



地域防災計画(原子力災害対策編) **ココがポイント!**

❗ 情報収集と住民への伝達

- ・ 国、新潟県、原子力事業者などと連携し、迅速な情報収集
- ・ 新潟地方気象台との連携による気象情報の入手
- ・ 緊急告知FMラジオやエリアメール、ケーブルテレビ、長岡市ホームページなど、あらゆる手段を用いた住民への情報伝達



緊急告知FMラジオ

❗ 屋内退避、避難

- ・ 安定ヨウ素剤の配備
- ・ 風向きなどを考慮した避難計画
- ・ 自家用車避難の原則と避難バスの確保

❗ 知識の普及と啓発

- ・ 市民向け「原子力防災ガイドブック」の作成と全戸配布
- ・ 防災訓練の実施

長岡市防災計画の策定と体制の強化

「原子力防災訓練」を実施

平成25年10月13日、柏崎刈羽原子力発電所で緊急事態が発生した場合を想定し、宮本、大積、青葉台の3地区を対象に、当市で初めての原子力防災訓練を実施しました。

訓練は、2つのシナリオを設定し、シナリオ1の「まずは屋内退避」、シナリオ2の「風向きなどを考慮し、配慮が必要な方の避難」に取り組みました。

今回の訓練で得た成果や課題などは、この原子力防災ガイドブックの作成や実効性のある防災体制の強化に活かしています。



自主防災会の情報伝達



消防団車両による広報



屋内退避の実演



長岡市が用意したバスによる避難

◎ 訓練の映像は、長岡市ホームページでご覧いただけます。

【URL】 http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/nuclear-safety/kunren_20131013-2.html

【QRコード】



県内全市町村との連携

「市町村による原子力安全対策に関する研究会」を設立

(代表幹事 森 民夫 長岡市長)

原子力災害から市民生活を守るためには、柏崎刈羽原子力発電所の安全性を確保することが最重要の課題です。日々の安全対策の実施状況や、万一が事故が発生した場合に**国や新潟県が出す見解などを理解し判断できる実力を市町村が備え**なければなりません。

そこで、高い専門性が求められる原子力防災対策を充実させ、市民生活の安全・安心を守るために、**市民に一番近い市町村が連携し安全対策を研究する「市町村による原子力安全対策に関する研究会」**を設立しました。



第1回市町村による原子力安全対策に関する研究会 (平成23年9月12日)

- 長岡、新潟、上越の3市が共同で設立
- 参加自治体が拡大し、平成24年1月から県内全30市町村で構成



細野環境大臣に要望書を提出(平成23年12月26日)



新潟県知事に要望書を提出(平成24年1月16日)

国や新潟県へ 原発の安全確保や実効性のある対策を要望

原発の安全確保及び実効性のある防災体制の確立には、国・新潟県による対策が不可欠です。また、国、新潟県、市町村の役割分担と責任を明確にすることが重要となります。

これまでの研究会の成果を踏まえ、福島第一原発事故の検証に基づき、新たな法整備などを含め、国・新潟県に徹底した安全対策を講じるよう強く要望しました。

県内全市町村との連携

全国初 県内全市町村が連携し避難計画を策定

平成24年11月2日、柏崎刈羽原子力発電所で、万が一原子力災害が発生した場合の避難・屋内退避・避難者受入に対する共通の考え方を「実効性のある避難計画（暫定版）」として取りまとめました。

県内の全市町村が連携して避難計画を策定した全国初の取り組みです。

長岡市をはじめとしたそれぞれの市町村では、この避難計画を基に、地域防災計画の策定などの安全対策に取り組んでいます。



パニックを避けるため考え方を共有

いざというときにパニックにならないよう、避難・屋内退避・避難者受入について、県内全ての市町村がそれぞれの役割を定めました。

● 避難計画の共通の考え方

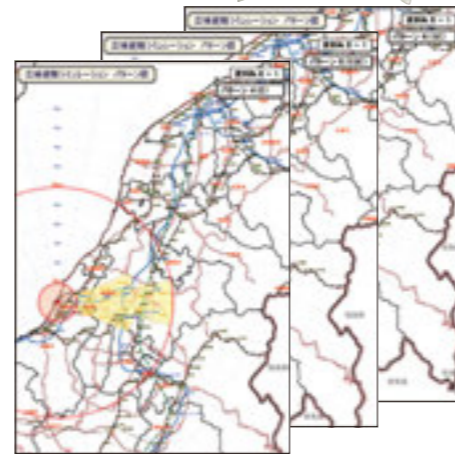
- ・ 風向きを考慮し、風向きと直角方向などへの避難が原則
- ・ 危機を脱出することが主目的の「一次避難」と、長期間の「二次避難」とに区別し、一次避難を重視
- ・ 5km圏は即時避難。5km～30km圏は屋内退避を前提とし計画的に避難

避難のパターンを想定し、詳細な資料を作成

柏崎刈羽原子力発電所の中心から半径50km圏を細かく区割りした共有地図を作成。

市町村別に避難対象となる人口を把握し、風向きに対応した10通りの広域避難パターンを検討。

避難者受入を担当する市町村の学校・体育館など避難所の位置図を作成。旅館やホテルなどの民間宿泊施設についても収容数などをまとめました。



広域避難パターン図



受入可能な避難所の位置図



全国初 県内全市町村が東京電力株式会社と安全協定を締結

平成25年1月9日、県内全市町村のうち、既に安全協定を締結している原発立地の柏崎市、刈羽村を除く28市町村が、東京電力株式会社と安全協定を締結しました。

県内全市町村がそろって原子力事業者と安全協定を結ぶのは全国で初めてです。

原子力発電所連絡会の開催

平常時の意見交換の機会として、28市町村と東京電力株式会社との連絡会を定期的開催する。

現地確認の実施

市町村は、住民の安全確保のために必要な場合は、原子力発電所の現地を確認し、相互に意見を述べる事ができる。

異常時の通報連絡を義務化

原子力発電所の異常時には、東京電力株式会社から各市町村に直接通報が入る。

損害の補償

原発の運転・保守により住民に損害を与えた場合は、東京電力株式会社は誠意を持って補償する。

原子力発電所連絡会の取り組み

安全協定に基づく「原子力発電所連絡会」を開催し、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の確認や意見交換を行っています。

- ・ 福島第一原子力発電所事故の検証報告の説明
- ・ 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策、地質調査の説明
- ・ 防潮堤建設現場などの視察
- ・ 市町村と東京電力株式会社との意見交換



防潮堤建設現場を視察する市町村担当者



6号機建屋内で説明を受ける市町村担当者



東京電力株式会社からの安全対策の説明



市町村と東京電力株式会社の意見交換

原子力防災用語集

放射性物質	原子核が崩壊して放射線を放出する核種(原子又は原子核の種類)を含む物質のこと。
放射線	エックス線、ガンマ線などの電磁波とアルファ線、ベータ線、中性子線などの粒子線のこと。
放射能	放射性物質が自発的に放射線を放出する性質のこと。また、放射性物質の量を表すもので放射能の強さを意味する。放射能の単位としては、ベクレル(Bq)が使用される。
外部被ばく	原子力施設から放出される放射性物質及び放射線による被ばく形態の一つ。放射線により人体の外部から被ばくすること。
内部被ばく	原子力施設から放出される放射性物質及び放射線による被ばく形態の一つ。内部被ばくには、経口摂取、吸入摂取、経皮摂取の3通りがある。
屋内退避	原子力施設から放射性物質又は放射線の異常な放出が発生した場合の防護手段の一つ。窓・扉などの開口部を閉め、換気は止めて屋内に留まること。
避難	原子力施設から放射性物質又は放射線の異常な放出が発生した場合の防護手段の一つ。放射性物質の大量の放出までに十分な時間的余裕があり、長期間の放出が予想され、しかも避難によらなければ相当の被ばくを避け得ない場合に有効な手段のこと。
モニタリングポスト	原子力施設周辺の放射線を監視するため、気象条件、人口密度などを考慮し設置された、環境放射線を連続して測定する設備のこと。
長岡市放射線観測システム	国、新潟県、長岡市、原子力事業者が設置しているモニタリングポストの観測データのほか、アオーレ長岡(本庁舎)及び全支所において、平日の朝に長岡市職員が放射線測定を実施した結果を長岡市のホームページで公開する仕組みのこと。(平成24年3月から運用開始)
緊急時モニタリング	原子力発電所などで異常事態が発生し、施設外へ放射性物質が大量に放出された時、又はその恐れがある時に、原子力発電所周辺環境の放射線及び放射性物質に関する情報を迅速に得るために緊急に実施される環境放射線の測定のこと。

(原子力規制委員会ホームページ「原子力防災用語集」に基づき作成)

原子力防災 Q&A

Q 原発の安全対策を、どう求めているの？

A 国、新潟県、原子力事業者に対して、要望や協定などを通じて、原発の安全確保や実効性のある防災体制の確立など、徹底した安全対策を求めています。

詳しくは2, 22, 24ページをご覧ください。

Q 放射線の値はどこでわかるの？

A 長岡市や関係機関が行った放射線測定の結果は、長岡市ホームページ「長岡市放射線観測システム」で公開しています。

詳しくは6, 14ページをご覧ください。

Q 原子力災害の知らせを聞いたら、どうしたらいいの？

A あわてず冷静な行動を心がけてください。自宅に入り、ドアや窓を閉めるなど、まずは屋内退避に取り組んでください。

詳しくは5, 7, 9ページをご覧ください。

Q 避難が必要なときは、どうすればいいの？

A 避難は特定区域のみ行います。避難先は、風向きや降雨・降雪など気象も考慮し、決定します。皆さんは、自家用車で避難先に向かってください。自家用車で避難ができない方には、バスや福祉車両を用意します。

詳しくは11ページをご覧ください。

Q 子どもが保育園や幼稚園、学校などにいるときに、原子力災害が起きてしまったら？

A 長岡市は、子どもの安全を確保し、速やかに保護者に引き渡します。

詳しくは15ページをご覧ください。

Q 安定ヨウ素剤はどうなっているの？

A すでに新潟県が購入しており、今後、長岡市は、新潟県と適切な配備について協議を進めていきます。

詳しくは8ページをご覧ください。

各種情報のご案内

■ 長岡市ホームページ



長岡市や市町村研究会の取り組みなど
http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/nuclear-safety/



ながおか防災ホームページ
http://www.bousai.city.nagaoka.niigata.jp/



長岡市原子力防災訓練(訓練映像)
http://www.city.nagaoka.niigata.jp/shisei/nuclear-safety/kunren_20131013-2.html



長岡市放射線観測システム
http://www.kishou.city.nagaoka.niigata.jp/Radiation/



■ 国(原子力規制委員会)ホームページ
http://www.nsr.go.jp/



■ 新潟県(原子力安全対策課)ホームページ
http://www.pref.niigata.lg.jp/genshiryoku/

原子力規制委員会
『緊急時情報ホームページについて』
http://kinkyu.nsr.go.jp/

原子力規制委員会では、原子力施設立地地域で大規模災害などが発生した際に、地域住民などの皆様へ迅速に情報を提供するため、緊急時情報ホームページを開設しています。また、携帯電話への緊急情報メールサービスもあります。(メールサービスの登録は、右のQRコードからも可能です。)



原子力防災や安全対策などについてもっと知りたい!

長岡市では、町内会や自主防災会などを対象に、市の取り組みなどを紹介する**市政出前講座**を行っています。地域の防災力を高めるため、ぜひご活用ください。

